

2 2 9

こんにちは。塾長の大井です。

6期生受験戦記第14回です。

この1月、2人の生徒が快進撃を見せました。

1人目はMさんでした。メダル授与式でも1人ひとりの意識の重要性を語った彼女でしたが、成績はクラスで常に下位でした。1月は手堅く合格が取れる併願を組み、淑徳中、埼玉栄中、獨協埼玉中を3連勝しました。やはり合格は自信と勢いを生みます。「悔しくともずっと愚直な努力を惜しまなかった結果だ。」と大いに褒めました。

しかし、4戦目は超格上でした。平均偏差値46だった彼女からすると、浦和明の星中に次ぐ埼玉トップの淑徳与野中は偏差値59、小学校の面談でも彼女のレベルで淑徳与野に受かった子はいないと言われていたそうです。

それでもMさんには強みがありました。彼女はTOP生として、御三家級の生徒たちとずっとレベルの高い授業を受け続けて来たのです。加えて彼女には人一倍の強い心がありました。彼女は腐ることなく、ずっと

弱点と向き合ってきました。

「先生と見たい。」2日後そう言って M さんは、TOP で私たちと合格発表を見ました。

いつものように、HP の発表画面を隠し、少しずつずらしていきます。

「M、いくぞ、見るぞ！来い！！」

合格でした。本当に受かっていました。

「やったあああああ！！！」

M さんは泣いていました。自分が成し遂げた快拳にボロボロと涙を流していました。

それは国語の授業でもよく感動して泣いていた彼女が、TOP で流した最幸の涙でした。

「one for all とはまず one= 1 人ひとりの想いからだ。」

そう語っていた M さんは、その言葉通り、チームに大きな風を吹かたのです。

(第15回につづく)

2021年3月15日

大井 雄之